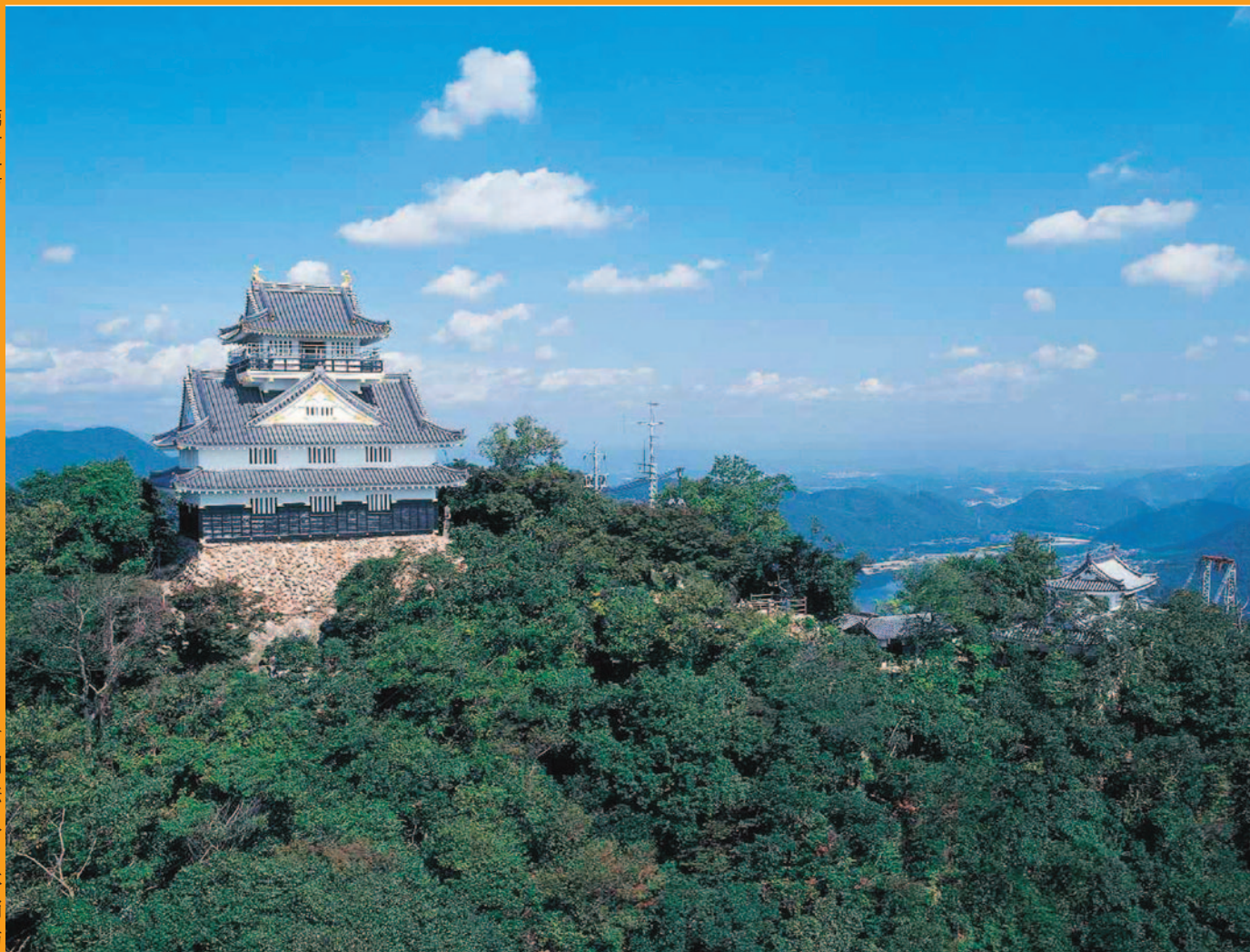


日本消防



●第18回全国女性消防団員活性化秋田大会開催

12
2012

- 絵 第18回全国女性消防団員活性化秋田大会 H24.11.16 (金) 於 秋田県民会館
 第16回消防互助年金海外視察 H24.11.18 (日)～11.24 (土) オーストラリア
 女性消防団員リーダー会議開催 H24.12.14 (金) 於 日本消防会館

巻頭言 「地域防災における消防団の重要性」	青森県消防協会 会長 木戸 鐵雄	1
日消の動き 東日本大震災被災地をお訪ねして	(財)日本消防協会 会長 秋本 敏文	3
～第18回全国女性消防団員活性化秋田大会を開催～	(財)日本消防協会	4
消防団と住民によるファーストレスポnder活動	石川県加賀市消防団 団長 山下 敏雄	12
「機能別分団 金勝山林分団を発足して」	滋賀県栗東市消防団 団長 高田 治	14
東西南北 (岐阜県)「安全で安心して暮らせるまちづくり」	岐阜市中消防団 団長 井深 政良	16
東西南北 (広島県)「人輝く・安芸高田」の安全・安心のため全力を尽くす」	安芸高田市消防団 団長 金山 幸治	18
東西南北 (福井県)「地域防災のリーダーとしての消防団」	小浜消防団 団長 河原 年	20
東西南北 (大分県)「市民と観光客の安全、安心を守る街づくりを」	別府市消防団 団長 宗園 洋	22
シンフォニー (熊本県)「見て！聞いて！私達の消防活動」	長洲町女性消防隊 隊長 坂口 篤美	24
シンフォニー (宮城県) 東日本大震災を経験して思うこと「防災力を身につけて」	美里町消防団 本部班長 富田 恭子	26
平成24年度消防団幹部等海外消防事情調査 (アメリカコース)		
平成24年10月9日 (火) から10月17日 (水)	(財)日本消防協会	28
平成24年度日中韓消防協会会議について	(財)日本消防協会	33
平成24年度防火防災に関する作文コンクール審査結果	生活協同組合 全日本消防人共済会	34
第16回消防互助年金海外視察 (自然災害時緊急援助隊組織訪問を中心として)		36
頑張れ！少年消防クラブ (福岡県)「-夏季研修を実施-」	八女市矢部少年消防クラブ 事務局 入部 恵市	37
文化財を火災から守ろう！	総務省 消防庁 予防課	38
1月17日は「防災とボランティアの日」1月15日～21日は「防災とボランティア週間」		
	総務省 消防庁 防災課	39
「消火栓」や「防火水槽」の付近は駐車禁止です	総務省 消防庁 消防・救急課	40
消防団への入団促進	総務省 消防庁 国民保護・防災部防災課	41
地震発生時の出火防止	総務省 消防庁 防災課	42
うちの名物団員		43
消防団の広場 (神奈川県)「安全で住みやすいまちを目指して」	茅ヶ崎市消防団 団長 廣瀬 康男	45
消防団120年記念カレンダー		46

1月の日本消防協会関係行事
 編集後記

表紙写真説明

「岐阜城」

岐阜城は、建仁年間(1201～1204)の築城で、戦国時代には斎藤道三公の居城でもあったところ。特に岐阜城の名を天下に示したのは、永禄10年(1567年)8月、不世出の英傑織田信長公がこの城を攻略し、地名を「井の口」から「岐阜」に改称しました。最上階からは、壮大な眺望を楽しむことができます。

(岐阜県岐阜市)

第18回全国女性消防団員活性化秋田大会

平成24年11月16日（金） 於 秋田県民会館



第16回消防互助年金海外視察

平成24年11月18日（日）～11月24日（土） オーストラリア



ウーロンゴン NSW of State Emergency Service（ニューサウスウェールズ州 自然災害時緊急援助隊組織）にて

女性消防団員リーダー会議開催

平成24年12月14日（金） 於 日本消防会館



「地域防災における消防団の重要性」

青森県消防協会 会長 木戸 鐵雄



昨年3月11日に発生した「東日本大震災」により被災された皆様方に、心から追悼の意を表するとともに心よりお見舞い申し上げます。

東日本大震災により青森県内でも死者、行方不明者、負傷者、建物被害など甚大な影響がありました。

この未曾有の大震災を教訓にし、今後発生が懸念されます大規模災害への備えに万全を期す必要があると考えております。

さて、私が住んでおります青森県は本州最北端に位置し、三方向を海に囲まれ、四季折々に美しい姿を見せる雄大な自然と豊かな風土に恵まれています。

春には桜祭り、夏には東北三大祭りにも数えられるねぶた祭りを始め各地で伝統的な祭りが開催され、秋には紅葉、冬は雪にまつわる様々な催しが開かれます。

日本一の収穫量を誇るリンゴやニンニク、全国的に有名なマグロやヒラメなどの山の幸、海の幸を使った郷土料理や県内各所で湧出する温泉も魅力です。

その一方で雪国ならではの被害も多く、屋根の雪下ろしによる転落事故、凍結路面での転倒等、小規模なものを始め、今年2月には青森県横浜町の国道279号線において、暴風雪のため多数の車両が道路上に滞

り、数時間にわたり立ち往生するという大規模な災害も発生しました。

反面、消防団員の避難誘導、救助により被害の拡大を未然に防ぐことができ、地域防災の要としての消防団の重要性が再確認されたところでもあります。

青森県消防協会は本年4月1日から公益財団法人への移行を果たしましたが、その歴史は古く、昭和3年に財団法人青森県消防義会として設立、昭和14年に財団法人青森県警防義会、戦後の昭和25年に財団法人青森県消防協会へと二度の改名を経て、現在に至るまで80年近い歴史を有しております。

当協会は、県内40市町村41消防団、消防団員約19,900人の会員で構成されており、防災思想の普及、消防団員の士気の高揚及び団結強化の推進、消防団員の資質及び消防技術の向上、消防団員の加入促進等の事業に取り組んでおります。

現在、消防団員を取り巻く環境は厳しく、消防団員の減少、高齢化、サラリーマン化等の全国的にも問題視されております課題は、本県でも例に違わず抱えております。

消防団は地域防災の要として、いかなる災害にも即応できる自主防災体制の充実を

図りながら、地域住民の安心安全な生活を守る必要があります。

このため、消防団の重要な使命を認識し、高い士気のもと、訓練を重ね、より精強な組織作りに励み、地域住民の期待と信頼に応え、災害の防止と被害の軽減に努めていかなければなりません。

そこで当協会では、パンフレットやクリアフォルダを作成し、各市町村消防団を通して配布し、新入団員の加入促進を図っております。

また、年々増加傾向にあります女性消防団員の確保についても力を入れており、毎年9月から10月にかけて女性消防団員を対象とした研修会を開催し、消防団活動に対しての知識と理解を深めるよう働きかけております。

今年度の研修会は前述の青森県横浜町の豪雪災害現場を視察しました。

今後とも、より積極的に女性消防団員活動の支援を図り、団員数を増加させるため地道に取り組んでいきたいと思っております。

消防団員のサラリーマン化については、「消防団協力事業所として認定された事業所」に対して、青森県内では平成23年度から十和田市と鱒ヶ沢町の2市町で入札に参加する場合、評価に取組を追加して検討することにより、入札参加機会の拡大を行う制度が設けられております。

消防団協力事業認定に対しての優遇措置により、事業所の従業者が消防団活動しやすく、また入団しやすい環境づくりを積極的に推進しておりますが、県内40市町村のうち2市町という現状をみるに、これからも制度の積極的な導入を働きかけていかな

ければならないと考えております。

以上青森県内の消防団に関する取組を中心に紹介させていただきましたが、皆様ご存じのとおり消防団員は、普段はそれぞれ自分の仕事を持ちながら、いざ災害発生の際は地域住民の安全を守るため現場に駆け付け防災活動に当たっております。報酬、出動手当等は決して多くなく、ボランティア精神に支えられている活動です。昨年の大震災を鑑みるに、今後の大災害時において常備消防のみでは活動が困難なことは明白です。

近年の消防団の活動状況をみると、火災の出動はもとより、地震や津波による警戒や避難誘導、風水害時の水防活動、行方不明者の搜索等多種多様な現場に出動しており、その活動は常に危険と隣り合わせです。

当協会ではこのような消防団活動へのサポートを積極的に行い、各消防団、各市町村の課題に取り組み、県内、ひいては全国の消防団がなお一層の充実強化、処遇など活動環境の改善を図るため今後も青森県から全国へ情報発信を行い、消防団の充実を邁進して行きたいと考えております。



東日本大震災被災地をお訪ねして

財団法人日本消防協会 会長 秋本 敏文

当協会の地震等防災対策委員会は、今年は、正副会長とともに、福島県南相馬市の現地調査を行いました。南相馬市は、地震、津波のほか原発事故まで加わって、およそ1,000人もの方がお亡くなりになり、住宅12,000戸以上が全半壊、一部損壊になりました。市内南部の地域は、原発から20km圏域等で現在も帰還困難区域などがあります。消防団員も9人殉職されました。

南相馬市の消防団等の活動状況は、発災後間もない7月30日の東日本大震災全国消防団報告研修会や活動記録誌「消防団の闘い」にもありますが、やはり現地をうかがいますと、あらためて今回の災害の物すごさを知り、その中での消防団員等の懸命の活動に、敬意を表さずにはいられません。また、今回の大震災の体験をこれからの我が国の消防防災体制づくりにいかすため、日消では、今年2月に「東日本大震災後の我が国消防防災体制のあり方に関する意見」を、5月に「平成25年度の消防団関係予算に関する要望」を決定して、関係方面に要請しましたが、被災地をお訪ねして、これまでに申し上げてきた考え方はまちがってないとあらためて思いました。

それらのごく一部を書いてみます。

「正確」な情報の迅速的確な伝達、情報共有の重要性はあらためて痛感します。被災した各地の状況は消防団からの発信が不可欠ですし、消防機関全体の効果的な活動のためには統一された情報伝達のシステムが必要です。地震の際の津波、大雨の時の上流部の降雨量などは、特に「正確」な情報が必要です。また、消防機関内の情報だけでなく、政府の国民向け情報発信を把握するためには、非常電源によるテレビ受信もできるようにしておく必要があります。多様なルートをもつ情報ネットワークの整備は大きな課題ですので、日消も参加して、消防庁では大災害時の情報伝達についての勉強会を発足させています。実効性あるシステムの早期整備は重要です。

消防団の活動を支える水、食料、燃料などの基本的な物資の備蓄も重要です。東日本大震災で、被災地の多くの消防団は、殆んど飲まず、食わず、暖房なしで活動しました。こんなことは繰り返してはなりません。近隣の消防団が応援出動するためにも、これは必要です。このような基本装備とでもいべきものの必要性は、常備も消防団も同じです。これからの装備については、このようなものを含めて、消防団も常備と同様の装備を保有することを原則としながら具体的な検討をすることが必要と思われれます。

以上のようなことなどさまざまな課題をいかにして解決するかがこれからの重い宿題です。

最後にひと言。間もなく2年になるかという被災地の状況を見るにつけ、早期の復旧復興を心から祈らずにはおれませんでした。

～第18回全国女性消防団員活性化秋田大会を開催～

平成24年11月16日（金）、第18回全国女性消防団員活性化秋田大会が秋田県秋田市「秋田県民会館」において盛大に開催され、全国から約2,500名の女性消防団員等関係者の方々が参加されました。

今大会は、「美の国へようこそ！女性消防団員 秋田で元気に」をテーマに、全国女性消防団員が一堂に会し、日頃の消防団活動や取り組みについての発表や地域をこえた情報交換が行われ、女性消防団員の活気ある大会となりました。

大会要項

- 1 大会名称 第18回全国女性消防団員活性化秋田大会
- 2 開催日 平成24年11月16日（金）～17日（土）
- 3 大会会場 大会 「秋田県民会館」
情報交流会 「秋田キャッスルホテル」
- 4 主催 消防庁
財団法人 日本消防協会
公益財団法人 秋田県消防協会
第18回全国女性消防団員活性化秋田大会実行委員会
- 5 共催 秋田県 秋田市
- 6 後援 秋田県市長会 秋田県町村会
秋田県消防長会

大会スケジュール

- ◎ 大会（秋田県民会館）
- 10:00～10:40 開会式
 - 10:40～11:30 活動事例発表（4団体）
 - 11:30～11:50 アトラクション
「西馬音内盆踊り」
 - 13:10～14:10 火災予防啓発劇（3団体）
 - 14:10～15:10 パネルディスカッション
 - 15:10～16:10 記念講演「俳優 柳葉敏郎 氏」
 - 16:10～16:30 閉会式
- ◎ 情報交流会（秋田キャッスルホテル）
- 18:00～19:30

オープニングセレモニー



なまはげ太鼓

開 会 式



大会旗入場



大館市消防団 奥村牧子さんによる開会宣言

あ い さ つ



主催者挨拶 消防庁 岡崎長官



主催者挨拶 日本消防協会 秋本会長



主催者挨拶 秋田県消防協会 中泉会長



開催地市長挨拶 秋田市 穂積市長



来賓祝辞 秋田県 佐竹知事

活動事例発表



鹿児島県薩摩川内市消防団
宮里英子さん
「女性消防団員がめざすもの」



滋賀県野州市消防団
大門佳子さん、堀江さや美さん、梅本和子さん
「YFL分団を粹な活動にしまひょ!!」



神奈川県横浜市西消防団
濱下康子さん
「女性という個性を活かした消防団へ」



茨城県常陸大宮市消防団
三次雅子さん
「表舞台の女性消防団 陰で力を惜しまない女性防火クラブ」

※ 発表内容について次号以降の「日本消防」に掲載を予定しております。

アトラクション



西馬音内盆踊り

火災予防啓発劇

火災予防啓発劇は、全国から選ばれた3団体が発表しました。それぞれ趣向を凝らした啓発効果の高いものでありました。



秋田県秋田市消防団「生まれ・倒れる・転がれ」

「ストップ・ドロップ・アンドロール」の実践的な幼児防火教育に、子供たちが親しみやすいキャラクターを取り入れた内容となっていました。



三重県津市消防団「火災無子の防災教室～自分の命は自分で守る 編～」

自分の命は自分で守る編と称し、地震や津波などの災害に対しての日頃の準備の大切さを、時にユーモアを交えながら訴える内容になっていました。



奈良県奈良市消防団「私、大好き！消防団！」

ファッションショーの様に消防団活動を紹介するとともに、踊りながら普通救命講習の動作を覚えてもらう体操を、会場と一体となって行っていました。



パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、「大規模災害時における女性消防団員の活動について」をテーマに、公益財団法人 東京防災救急協会 講習指導担当部長の谷口由美子氏がコーディネーターとなり、5名のパネリストの方々から、東日本大震災での活動内容について報告していただき、今後の大規模災害の対応に生かしていただく為に、会場も交え積極的な意見交換が行われました。



コーディネーター 谷口由美子氏



コーディネーター

公益財団法人 東京防災救急協会 講習指導担当部長 谷口由美子 氏

パネリスト

岩手県宮古市消防団	高田由美 氏	宮城県気仙沼市消防団	小山ふみ子 氏
福島県田村市消防団	渡辺清子 氏	高知県高知市消防団	小野政子 氏
秋田県大仙市消防団	草薙忠誠 氏		

記念講演

記念講演では、映画、TV、CM等でご活躍の柳葉敏郎様と、フリーアナウンサーの石垣政和様をお迎えして、「ようこそ秋田へ みんなで夢をかだろ」と題し、秋田在住の柳葉様ならではの、軽快なトークと、映画で見せる室井警視監とは違い、観客席に降りて気軽に握手に応じる陽気な性格で、会場にお集まりになられた皆様に元気を与えていました。



閉 会 式



にかほ市消防団 三浦由美子さんによる大会宣言



秋田市消防団 松本恵さんによるお礼の言葉



大会旗引き継ぎ



次回大会開催地岐阜県消防協会 尾石会長挨拶



横手市平鹿消防団 原ヨシミさんによる閉会宣言



司会を務められた由利本荘市消防団佐藤美子さん

会場内の各コーナー



全国の女性消防団員の活動を紹介するコーナー



物産販売コーナー



記念写真撮影コーナー



消防団120年記念コーナー

会場には、全国の女性消防団のPRコーナー、秋田県物産品販売コーナー、日消グッズ販売コーナー、秋田県PRコーナー、次期開催県（岐阜県）コーナー、記念写真撮影コーナー、消防団120年記念コーナーなどを設けました。各コーナーには、大勢の人が集まり大盛況でした。

情報交流会

活性化大会終了の情報交流会では、約1,500人の方々が参加し、地域を越えた情報交流が行われ、大いに盛り上がりました。



鏡 開 き



消防団応援歌「三百六十五歩のマーチ」



秋田民謡と手踊り「ドンパン節」



竿 燈



万歳三唱

次回開催
第19回全国女性消防団員活性化
ぎふ大会

平成25年10月30日（水）
飛騨・世界生活文化センター
（岐阜県高山市）

消防団と住民による ファーストレスポonder活動

石川県加賀市消防団 団長 山下 敏雄



～はじめに～

加賀市は、石川県の最南端に位置し、面積306km²、三名山の一つ白山連峰を望み、千古の由来を持つ加賀温泉郷や四季の変化に富んだ自然豊かな環境に立地しております。

今回紹介する加賀市塩屋町は、福井県との県境に位置し、北前船の里として有名で、天然記念物の照葉樹林が広がる鹿島の森や美しい自然景観などが楽しめる塩屋海岸を有する風情・歴史ある地域です。

～加賀市消防団の紹介～

加賀市消防団は、団本部と4方面の26分団（定数410名）で構成されており、消防ポンプ自動車26台、資器材搬送車1台、その他各種災害対応資器材等を保有しています。複雑多様化する火災・自然災害等に迅速・的確に対応するため、各種訓練を実施するとともに、防災訓練などでは地域住民への防災指導などの活動を積極的に行っています。



塩屋町の民家車庫での実践訓練



ファーストレスポonder隊発隊式に向けての塩屋町公民館での救命講習風景

～全国初のファーストレスポonderへの取組～

塩屋町の住民の方々は、日頃から高齢者の見守り活動や子どもたちへの防犯活動、災害への対応力強化のため防災資器材の整備を図るなど、力を合わせて様々な活動に取り組んでいます。

我々が紹介するファーストレスポonder（以下、「FR」という。）体制とは、消防本部からあらかじめ救命講習等の訓練を受けたFR隊員が、塩屋町地内において傷病者の生命に危険が迫っているような状況が発生したときに、救急隊の到着を待たずにいち早く一次救命処置を実施し、救命率の向上に取り組む全国初の「住民組織」です。

この体制は、総務省消防庁の平成23年度消防防災科学技術研究制度で採択された「心肺蘇生開始までの時間短縮を目的としたFR体制の研究開発」の研究として、自治医科大学を中心とする研究班から加賀市に提案があり、救急車の現場到着までの所要時間が10分以上要する地域を考察した結果、加賀市塩屋町が



ファーストレスポonder隊発隊式に向けての塩屋町公民館での救命講習風景

対象となり、地域住民の総意としてFR体制の導入が決定され、町内の有志でFR隊の発足に向けた準備が進められました。

その様な中、FR隊の後押し・推進を目的に、リーダー的な存在として地域の防災を担う地元消防団にも参加してほしいとの強い要望があがり、加賀市消防団塩屋分団員15名もこのFR隊に参加することになりました。

このことは、我々加賀市消防団が地域に根ざし、住民のために頑張ってきた期待と信頼の賜物と大変うれしく思っております。

塩屋町FR隊は、団員を含む有志40人の参加のもと、平成24年11月4日に正式に発足しました。活動にあたっては、FR隊員は119番通報を受けた消防本部から一斉に要請メールを携帯電話で受信し、出動可能な隊員は迅速に対応することになります。

現在、塩屋分団員はFR隊員として活動を行うだけでなく、ほかの隊員一人ひとりに対し次のような取組を行うことで、意識を高揚させ、住民組織が活動を継続していくために重要な強い支援役を担っています。

- ① FR隊に要請があれば、迅速に対応ができるよう働き掛けること。
- ② 質の高い心肺蘇生法等の処置が維持できるように救命講習等の受講を推進すること。

- ③ その他、隊の活動に必要な様々な声掛けを行うこと。

加賀市消防団としても、その役目を担えることはこの上ない喜びであり誇りであります。地域の救命に関する意識の高い住民が、一次救命処置の重要性等を認識することは、救急隊・消防隊到着の遅延の課題を解消するだけでなく、救命率・社会復帰率を向上させ、これからの社会の担い手を守り、その家族・地域の幸福度を維持することに繋がるものと考えています。

～おわりに～

地域の人々の生命を守ろうとする活動は、高齢者の方々にとっては頼もしく感じられ、若者をみる目も変わりつつあり、老若男女を問わず、互いを思いやる気持ちが地域の繋がりを育み、地域に一番必要なコミュニティを活性化させる一役を担っています。このことは、現代において特に必要と思われる顔と顔が見える関係作りとなっているのです。

我々加賀市消防団は、地域の人々との会話を同じ目線で重ねてゆき、微力ながらも一連の活動を通して、さらなる信頼と大きな期待に応えられるように消防団活動を展開して参りたいと新たな決意に満ちています。



ファーストレスポonder隊発隊式集合写真

「機能別分団 こんぜ 金勝山林分団を 発足して」

滋賀県栗東市消防団 団長 高田 治



1 栗東市の紹介

栗東市は人口6万5千人、滋賀県の南部に位置し、市の北部は平坦地、南部は緑豊かな山地で、総面積52.75km²を有しています。

主要幹線道路として名神・新名神高速道路が縦貫し、国道1号線と国道8号線が栗東インターチェンジに接続しており、交通網の恵まれた立地条件で琵琶湖南部工業地帯として発展しています。特に平成3年にJR琵琶湖線栗東駅が開設され、京阪神の衛星都市として駅周辺の高層マンションなどが急激に増加する等、その発展ぶりはめざましいものがあります。平成13年10月1日、滋賀県内8番目の市として誕生した当市は「ひと・まち・環境 ともに育む『健やか・にぎわい都市』栗東」の実現に向け、まちづくりを進めています。

2 栗東市消防団の沿革・概要

栗東市消防団は、昭和38年9月、常備消防の発足と同時に栗東町消防団として定員80名の少数精鋭団員で構成した組織を確立しました。昭和63年4月に定数を増員、平成13年10月には市制による名称変更で栗東市消防団に生まれ変わり、平成16年10月、時代のニーズに応えるべく女性消防分団「マロンファーストレディース分団」を発足させ1本部5分団に改変し、組織充実強化に努め、更に本年10月、今回紹介します山林災害に特化した機能別分団を発足し、1本部6分団、定数118名としました。

現在、団長以下109名の実団員で、消防車両は指令車の他、ポンプ車4台、小型動力ポンプ積載車4台の計9台を有し、市民の安心安全を確保するため日夜災害に備えています。

3 機能別分団「金勝山林分団」の発足

栗東市は総面積の約40%が山林地域で、林野火災をはじめ土砂くずれなどの自然災害の他、近年は健康ブームからくるハイカーなどの入山者が増加し遭難等も増える傾向にあり、林道での原因不明の火災も発生し大惨事に繋がる可能性のある事案もありました。また、近隣市では過去に林野火災発生から鎮火まで数日にわたり消火活動が続いた災害もあり、これらは山間部を抱える防災関係機関の対策として課題となりました。



金勝山林分団発足式

当市には金勝山を主とする山間部を管理する各地域の生産森林組合が組織されており、財産区を守る体制として緊急時には「火災・土砂災害・負傷事故・遭難・林道障害」などの連絡網と対応策が構成員で築かれていました。

栗東市消防団ではこの体制を消防活動に活かせると山林地域に特化した機能別分団として「金勝山林分団」を今年10月に発足させました。条例定数を20名増やし、組合役員の19

名がこのほど消防団員として任命されました。分団には指揮命令の統率を図るため分団長、副分団長を1名ずつ配置し活動にあたるものとしています。

機能別分団は従来の基本分団と区別し、主な任務を山間部の地理を十分に把握していることから、常備消防・消防団・警察官や関係者に対し、火災や山岳救助など有事には整備された数ある林道のなか適切なルート誘導を行う他、要請により資機材を使つての倒木等の切断などの後方支援を担うこととし、平常時は山林の火災予防活動や訓練を行います。



金勝山林分団発足式にて辞令交付

4 有事に向けた訓練

「金勝山林分団」発足以来、幸いにして災害出動事案は発生しておりません。先般、機能別分団を活用する「山林踏破対応訓練」を実施しました。近年、国内では大型台風や突如とした異常気象から局地的な豪雨がもたらす災害が頻発していることから、夜間の山間部集落において土砂くずれと倒木が原因による林道寸断が発生し車両進入が不可能となり、その集落で負傷者が出たことを想定とし、山林分団の出動を要請、分団員は分団長の指示のもとに適切な林道ルート選定と誘導、更



古道を先導する金勝山林分団

に危険情報を消防職団員や警察官に提供するという内容でした。

当日は地元自治会の住民にも参加協力願い、孤立集落が発生した場合の適正な林道ルート判断、出動隊員に与える心身負担の影響等、安全管理を重視した災害対応の難しさと、何より当分団との連携により現場までの所要時間の短縮など機動面での機能が活かされ、所期の目的が認識できた訓練となり、今後の活動に向けた検証も行えました。



消防団・常備消防・警察による孤立集落での倒壊家屋救出訓練

5 おわりに

栗東市消防団は今回、機能別分団発足による増員を図りましたが、基本分団員は約7割がサラリーマンであり定員に満たない状況で消防団員確保のために様々な対策をとっています。消防団の存在と必要性を市民に知って頂けるようにポンプ操法の市大会を市内の消防団協力事業所として登録している企業（JA栗東市）の協力を得て商業施設を会場とし、常備消防（湖南広域消防局）、市職員とタイアップしポンプ操法を披露する傍ら、「消防フェア」を同時に開催し、親子を対象とした消防防災コーナーや地震体験、アトラクションを交えながらの広報活動を展開した中で若人向けに団員勧誘も行うなどしています。また、当消防団では従前より中学生や高校生を対象とした消防体験学習にも取り組んでおり、数年後その体験者が成人となる頃の市の新成人祝賀会の会場において消防団員入団勧誘を行い未来の消防団員確保のため長期的な取り組みも進めています。

今後も我々消防団員は、地域の防火防災のリーダーとして、市民が安心して暮らせるまちづくりに尽力して行きます。



「安全で安心して暮らせるまちづくり」



岐阜市中消防団 団長 井深 政良

1. 岐阜市の紹介

岐阜市は、木曾、長良、揖斐の三大河川の沖積土によって形成された濃尾平野の北部にあり、日本のほぼ中心に位置しています。岐阜県の県庁所在地でありながら、市内中心部に清流長良川が流れ、緑豊かな金華山がそびえる自然にあふれた街です。1,300年以上の歴史を誇る「ぎふ長良川鵜飼」

や織田信長公・斉藤道三公ゆかりの「岐阜城」など歴史の街としても知られています。明治6年に県庁所在地と定められてからは、伝統の商業都市に併せて県政の中心となりました。明治22年7月1日に市政を施行した当時は面積10km²、人口25,700人余りでしたが、以後近隣町村との合併を経て、現在は面積202.89km²、人口42万の全国有数の都市となり、産業都市として、あるいは観光都市として中部地方における政治、経済、学術、文化等の主要都市となっています。

2. 岐阜市消防団の概要

岐阜市の消防団は、元和5年の火消時代に始まり、時代の流れと共に警防団、消防団と名称を変え、昭和55年4月1日から、



岐阜城からの市内の風景

中・南・北の3消防団の下にそれらの分団が存在する現在の組織に改組されました。その後分団の合併、分離、市町村合併による編入を経て、現在の3消防団・39分団・定員1,251人での構成となりました。

3. 岐阜市中消防団の活動

岐阜市中消防団は岐阜市の長良川以南、JR高山線以北を15分団361名で管轄しています。管轄区域が、市中心部の建物密集地域であり、火災発生時には大火災につながる恐れがあるため、常日頃から消防団活動の重要性を認識しつつ活動しています。

消火活動のほかに、5月下旬から6月上旬に消防団員総出で厳正な規律の下行われる「消防団特別点検」、12月26日から31日



はしご乗り風景

の6日間に渡り実施される「年末夜警」、消防出初式での「はしご乗り」の披露、全国火災予防週間に伴う「火災予防広報」などを精力的に行っております。

なかでも、「火災予防広報」においては、幼少期から火災予防に対する意識啓発を促すために、少年消防クラブ員も消防車に同乗し、広報活動を実施しています。

また、住宅防火対策の推進活動の一環として、高齢者などの自宅を訪問し、住宅用火災警報器の取付作業支援活動を実施しています。

加えて、近年力を入れていますのが「防災士育成事業」です。これは、消防団員に防災士の資格を取得してもらい、今まで以上に地域防災の普及啓発に貢献するため、平成21年度に岐阜県消防協会の支援のもと開始しました。現在は岐阜市消防団全体で12名、うち

中消防団では4名が防災士の資格を取得しております。彼らは他の消防団員への防災知識の普及、地域の防災訓練などにおける指導者といった地域防災リーダーの役割を担っています。

4. おわりに

近年、都市化や生活様式の変化に伴って、火災現場への出場機会は幸いにも減少傾向にあります。しかしながら、平成23年3月11日に発生しました東日本大震災に代表されるような地震災害や風水害等、災害も大規模かつ複雑多様化の傾向にあり、住民の消防に寄せられる期待は今まで以上に高くなっています。

このため地域に密着した消防団の役割は、ますます重要となってきており、消防団では「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神に基づき、これからも市民のために「安全で安心して暮らせるまちづくり」を目指していきたいと考えます。また、組織の充実・強化を図り、全団員で消防団活動に励み、地域の防災リーダーとして邁進していきたいと思えます。



特別点検実施風景



「人輝く・安芸高田」の 安全・安心のため 全力を尽くす」



安芸高田市消防団 団長 金山 幸治

1 安芸高田市の紹介

安芸高田市は、広島県の中北部に位置し、面積は538.17km²で、急峻な山岳はみられないものの、鷹ノ巣山、大土山、犬伏山等大小様々な山に囲まれ、市域面積の約8割を山林が占めています。

全国的に有名なものとしては、三矢^{おしえ}の訓毛利元就の里、神楽、サンフレッチェ広島、湧永製薬ハンドボール部（ワクナガレオリック）が挙げられます。

本市では、協力の大切さを教えた「三矢の訓」、一致団結の大切さを伝えた「百万一心」。これらの訓を大切に、人が、地域が、自然がきらきらと輝く「人 輝く・安芸高田」を将来像に掲げ、一人ひとりがゆとりと豊かさを実感し、安全・安心に暮らせる夢と希望のもてるまちづくりに取り組んでいます。

2 消防団の概要

安芸高田市消防団は高田郡6町（吉田町、八千代町、美土里町、高宮町、甲田町、向原町）の合併に伴い平成16年3月1日に誕生しました。

団構成は1本部6方面37分団で、定数865名（実員835名：平成24年4月1日現在）で活動しています。また、団本部の中には消防音楽隊（隊員16名：平成24年4月1日



消防出初式での消防音楽隊の演奏

現在)を設置しており、消防出初式や外部団体からの要請により演奏を通じて市民との融和を図り、消防行政の円滑な推進に寄与しています。

車両は指揮車4台、ポンプ車6台、水槽付小型動力ポンプ積載車2台、小型動力ポンプ付積載車58台となっています。

現在、消防団の組織再編を行っており、分団及び班編成の平準化や詰所及び車両の整理統合を進め、分団及び班編成は37分団43班から37分団6班に、詰所は67棟から40棟に、車両は76台から56台に、それぞれ平成25年度までに整備する計画です。

3 消防団の活動

安芸高田市消防団の活動として、初心者、初中級幹部訓練をはじめ、全方面隊が集まる消防出初式や、方面隊ごとに行われる総

合訓練、査閲訓練、春・秋の防火パレード、分団ごとに行われる分団訓練を常備消防の協力を得て行っています。

近年は、分団訓練において地域の自主防災組織と合同で実施する分団が増えており、市民一人ひとりの防災意識と消防に対する信頼感の醸成に努めています。

また、文化財防火訓練は1年ごとに場所・訓練を実施する方面隊を変え、文化財所有者や地域関係者(自主防災組織)の協力のもと、消防署及び消防団合同による訓練を実施し、日常における防火意識と文化財保護意識の高揚を図っています。

4 おわりに

私は市になって3代目の消防団長として、平成24年1月1日に就任いたしました。

近年の災害は、ゲリラ豪雨、地震、竜巻など多種多様化また大規模化しており、消防団に寄せられる市民の期待は益々増大しています。



文化財防火訓練での消火訓練



消防出初式

我々消防に携わる者としてはこうした要請に応えるべく、日々訓練に励み、市民の生命・身体・財産を守るという使命はもちろんのこと、自らの生命を守るためにも日々研鑽を重ねていきます。

また、全国的な課題でもあります団員の高齢化や団員の確保、さらには施設や車両の老朽化等は、本市におきましても避けるとおることができない現状にあります。

そのため、消防団員の入団促進や事業所との連携のため、消防団協力事業所表示制度を導入し現在では104事業所を認定しています。今後も更なる啓発活動を行っていきます。

また、今年度の重点的な取り組みとして、①自主防災組織や地域住民との連携の強化、②団員の救命対応能力の向上、③女性団員入団へ向けた検討を行っていくこととしております。

これからも常備消防や地域と連携し、地域住民の安全・安心を守る消防団として日々精進していきます。



「地域防災のリーダー としての消防団」



小浜消防団 団長 河原 年

1 小浜市の紹介

小浜市は、福井県の南西部、若狭のほぼ中央に位置する人口約31,000人の市です。

古代から日本海を隔てた対岸諸国との交易が開け日本海側屈指の要港として栄え、伝来した大陸文化や陸揚げされた各地の物産は「鯖街道」などを経て近畿圏にもたらされました。北は若狭湾に面し海岸線一帯は、若狭湾国定公園に指定されています。リアス式海岸線には荒波が作り出した岩々と綺麗な海水と美しい砂浜の海水浴場が広がっています。

南は、東西に走る京都北部一帯に連なる山岳で、一部は滋賀県と境を接しています。また、日本海を挟んで朝鮮半島に向かい、昔からシルクロードの日本での玄関口として、近畿圏への大陸文化・南蛮文化の伝達の経路になっていました。



蘇洞門（そとも）

また、国の名勝に指定されている海蝕洞群の蘇洞門（そとも）をはじめ、自然環境が織りなす風光明媚な名所が数多く存在しています。

2 小浜消防団の概要

小浜消防団は平成24年4月1日現在、1本部10分団34部で構成されており、団員数は340名でその内女性消防団員は7名。運用資機材は消防ポンプ自動車5台、小型動力ポンプ付積載車10台、小型動力ポンプ39台を配備し小浜市全域の防火、防災に万全を期しています。また、部長以上に対するメール配信を利用し災害発生メールを一斉送信することにより、災害時にはより迅速かつ効率的な伝達に努めています。



平成24年 消防出初式

3 小浜消防団の活動

(1) 災害時の活動

「自分の町は自分で守る」をモットーに火災現場においては、初期消火、群衆整理および鎮火後の警戒警備等を行うため、常日頃から資機材の点検および取扱訓練を行っております。

(2) 平常時の活動

火災予防を特に重視し、春秋の火災予防週間には車両で消防署と連携し、市内全域の防火パレードを行っています。また、12月21日から翌年1月3日までを年末年始特別警戒として各分団の地元を中心に毎日夜間パトロールをしています。また、幹部教育や危険予知訓練（S-KYT）研修や日頃の教育、訓練にも力を入れて取り組んでおります。



平成24年 水防訓練

4 女性消防団の活躍

管内、340名の消防団員のうち7名の女性消防団員が活躍しています。女性ならではの感性や優しさを活かし、笑顔を浮かべての応急手当ての指導や、火災予防広報活動などを担当しています。福井県消防団広報大使にも登録され消防団活動のPRのほか消防団の活性化にも一役買っています。



消防団広報大使「レディース・ファイヤーおばま」

また、昨年10月に横浜市で開催された第20回全国女性消防操法大会に福井県代表として出場しました。約半年間の訓練を重ねた大会では敢闘賞を受賞しました。



全国女性消防操法大会

5 終わりに

東日本大震災をはじめとする、大地震や大型台風の襲来等これまで経験したことの無いような大規模災害が各地で起こり、消防団への期待が更に強まっている時代であります。

幸いにも小浜消防団は人員の不足もなく地域住民の消防団における信頼は非常に大きいものがあります。あらためて地域防災のリーダーとして自覚を高め、郷土愛を持ち続け、地域住民が安心して暮らせるよう努力していきたいと思っております。



「市民と観光客の安全、 安心を守れる街づくりを」



別府市消防団 団長 宗園 洋

1. 別府市の紹介

別府市は、九州の北東部、瀬戸内海に面した大分県の東海岸のほぼ中央に位置し、緑豊かな山々や高原と波静かな別府湾に囲まれた美しい景観を誇り、大地から立ちのぼる「湯けむり」は別府を象徴する風景として市民はもちろん観光客からも親しまれています。

市内には、別府八湯と呼ばれる8つの温泉エリアが点在し、毎分8万7千リットルを超える温泉は、日本一の湧出量と源泉数を誇り、年間の観光客数は1100万人を超える歴史と文化あふれる国際観光温泉文化都市です。

人口は、約12万人で市内には約4000人の



H24出初式

留学生が勉学に励んでおり、一般市民30人に対し1人の留学生が暮らす日本でも有数の異文化あふれる国際交流都市としても成長を続けています。

2. 別府市消防団の概要

別府市消防団は昭和22年5月に9個分団



20周年記念大会



扇山火まつり

編成により発足し、その後分団を増設して現在では消防車両は指揮車1台、広報車1台、ポンプ車7台、積載車14台、救助資機材搭載車1台を配備しております。

3. 別府市消防団の活動

当市消防団では昭和51年より別府市の温泉まつりに行われる「扇山火祭り」の警備を担当しております。この行事は毎年4月に扇山一帯を夜間に燃やします。

毎年、団員200名が出動し飛び火等の警備に当たっています。また、3月は春季訓練、7月は夏季訓練を行っております。この訓練では規律訓練を始め、ホース延長訓練、放水訓練等、特に消防署とのホース中継訓練を重点的に行っておりこの訓練が実際の火災現場では非常に役立っております。

また、新入団員には1年に1度まとめて新人教育訓練を行っております。当市では平成2年に9名の女性消防団員を採用し現在では43名になっております。

平成22年には結成20周年記念大会を開催し愛称も「スパファイアーレディス」と決定しました。昨年は「全国女性消防操法大会」に出場しました。「一人暮らしの防火訪問」を始め応急手当の訓練指導を行うな



別府市ゆけむり

ど市民の皆さんの安心と安全を守るために応急手当の訓練指導を行うなど市民の皆さんの安心と安全を守るために幅広い活動を行っております。

4. おわりに

周囲を海と山に囲まれ、一大温泉都市としての別府市は火山地帯でもあります。海岸線が長く多くのホテルもこの地域にあります。今東南海地震も予測されていますが、市のモットーであります「住んでよし、訪れてよし」の街づくり、そして市民はもとより、観光客の皆さんの「安心と安全」を守るために一層の訓練を重ね災害に対応できる団員の育成に取り組んでいく覚悟で頑張っています。



全国女性消防操法大会



全国女性消防操法大会



シンフォニー（熊本県）

「見て！聞いて！私達の消防活動」

長洲町女性消防隊 隊長
坂口 篤美

元気がとりえの私達女性消防隊が活動する長洲町は、熊本県北部の有明海沿岸に位置する人口約16,800人の、造船業と金魚の養殖が盛んな町です。

消防団は本団と15分団から成り、総勢約450人の団員が所属しています。女性消防隊は、本団付けで平成7年に発足し、現在は20代から50代までの16名が在籍しています。

発足当初は規律訓練を基本として教育され、そして勉強会を重ね、消火器の取り扱いや救急法などの基礎的な知識を深めていきました。

消防学校や全国女性団員活性化大会で多くの女性団員に出会い、活動事例を聞いて刺激を受け、いつか私達も大会のあのステー

ジで発表をしたいという思いを持ちました。

応急手当普及員の資格取得にも力を入れ、徐々に地域の防災訓練での指導や一人暮らしの高齢者宅防火訪問へと出動が広がっていきました。「もっと誰もが覚えやすい方法ってないかなあ」「こげんとはどうやる」子供からお年寄りまで一度見たら忘れられない「消火器取り扱い肥後にわか」の誕生です。「肥後にわか」とは熊本県に伝わる、方言を用いたかけあい漫才です。もんぺをはいて、真っ白に化粧してホクロをつけたおてもちゃんと手ぬぐいをかむったお花ちゃんが消火器の話で盛り上がります。笑って見ているうちに消火器の使い方を覚えるようになっていきます。下手くそな

私達の寸劇に地域のお年寄りが喜んで拍手をしてくれて、教えるつもりが優しさや元気をたくさん頂いて帰ります。

これに気を良くした私たちは、更に「心肺蘇生法肥後にわか」を作りました。『おても』『お花』という出演者は大忙しです。忙しついでに平成16年の全国女性消防団員活



ミュージカル『心肺しちゃった白雪姫』の1場面

性化山形大会にまで出てしまいました。全員で泣いたり笑ったり怒ったりしながら作り上げた発表でした。

更に調子にのった団員がミュージカルをしたいと言い出しました。「ミュージカル心肺しちゃった白雪姫」ができました。大変な難産でしたが、それぞれに得意分野や伝手があり、音楽・歌・衣装と、手作りで平成19年の全国活性化熊本大会に間に合いました。これは今では長洲中学校生徒への救急法指導の時に簡単バージョンで楽しんでもらっています。

平成11年のある日、勉強会で団長が言いました。「ポンプで放水をしたくないかい」物好きな団員何人かが「はい」と答えました。それが全国軽可搬ポンプ操法大会に向けての厳しい訓練の始まりでした。木枯らしの冬の夜、炎天下の夏の午後と続く練習は、選手と支える団員の絆を強くし、指導いただく本団、消防署員の方々への信頼を深めました。

平成13年、大雨の中で迎えた全国軽可搬ポンプ操法大会は入賞に到りませんでした。規律と団結力を財産として得、現在の出初め式の玉落し競技参加に繋がっています。平成25年度の熊本県女性消防軽可搬ポンプ



長洲町女性消防隊



成人式での勧誘活動

操法大会への再チャレンジを目論んでいるところです。

女性団員は近年増加傾向にありますが、結婚・出産・育児・介護と生活環境が変わっていく中で仕事・家庭・消防活動のバランスを取ることが難しく、中々出場できない、退団せざるを得ないということも多々あります。長く円滑な活動を行っていくためには、幅広い年齢層の団員がお互いに時間や活動を補い、柔軟に続けていくことが大切でしょう。

団員を募ることも大切です。何をしたら振り向いてもらえるか、興味を持ってもらえるか、

とにかく制服姿を見てもらおうと成人式にパンフレットを持って行って新成人に配ります。

スーツ姿も活動服姿もかっこいいでしょ！とにっこりしますがなかなか手強いです。

消防団に入団する事は、仕事と家庭に加え、重要な責務を負う事です。しかし、一個人として社会に貢献し地域の方とふれあい、力を貸すことができる喜びがあります。今後も研さんに努め、地域の皆さんに頼って頂ける元気な女性消防隊を目指していききたいと思います。



シンフォニー（宮城県）

東日本大震災を経験して思うこと 「防災力を身につけて」

美里町消防団 本部班長

富田 恭子

平成18年1月1日、小牛田町、南郷町が合併し「美里町」が誕生しました。

美里町は宮城県の北東部に位置し、奥羽山系を遠くに臨み、町の面積約75km²の70%を豊かな水田や畑が占めており、稲作や野菜の他に果樹や園芸も盛んです。我が町の町花になっているバラは市場における評価も高く、東北屈指の生産量を誇っています。

町を流れる江合川と鳴瀬川にはサイクリングロードが設置されており、河川敷ではグラウンドゴルフ大会やさまざまなイベントが催されてきました。昨年3月の東日本大震災では、両河川の堤防に多くの亀裂や一部崩壊が発生し、台風の影響による災害に不安な日々を過ごしていました。今盛んと復旧工事が行われており、ブルーシートの消えた堤防を見てはホッとしているところです。

私たち女性消防団員は、平成15年の全国女性消防操法大会出場をきっかけに、平成16年合併前的小牛田町消防団本部分団員として入団し、合併後、結婚や転出などの理由で数人



秋田大会

が退団しましたが、旧南郷町域からの団員も加わり、現在6名で活動しております。

旧南郷町が甚大な被害を受けた平成15年の宮城県北部連続地震、平成17年の宮城県沖地震、栗駒山の大崩落があった平成20年の岩手・宮城内陸地震、そして昨年3月11日の東日本大震災。団員となり、被災者となり改めて感じたことは、災害に強い地域づくり、人づくりの大切さです。もっと防災について一緒に考え、そして身につけてもらえるような活動をしなければならぬと思いました。

私たちの普段の活動に、予防消防活動がありますが、年頭の出初式に始まり、春・秋の火災予防運動における防火査察では地域のお宅を声掛けして回り、大型スーパー店頭で住宅用火災警報器設置のお願いとチラシ配布などを行っています。

消防演習では、進行係として緊張しながらマイクの前に座り、ほとんどの放送を担当しています。

町の総合防災訓練では、救助や応急手当の



秋田大会



防災ビンゴ

指導に当たり、地域の方々に応急担架での搬送の仕方や三角巾での包帯法、副木の当て方など具体的に指導しています。

女性消防団員のほとんどが応急手当普及員資格を持ち、婦人防火クラブの研修会や地域の集会などで普通救命講習を実施しています。また、夏休みには親子での応急手当講習を開催し、お互いに三角巾を巻いたりして、賑やかな中にもいざという時に役立つ指導をしています。併せて、花火の安全な遊び方、万が一衣類に飛び火したときの対処の仕方なども指導しています。

ゲームをしながら楽しく防災力をつけてもらうため、自主防災組織訓練の中に、子どもと家族、地域の高齢者の方々と楽しむ「防災ビンゴ」ゲームを取入れています。白い紙に9か16のマス目を記載し、参加者各自が必要と思う防災グッズ、非常持出品を記入してビンゴゲームを始めます。参加者に必要と思ったものを発表してもらくと、「赤ちゃんのために必要」、「高齢者だから必要」とさまざまな“気づき”があります。最後はこちらから、「こんなものがあったらよかったネ。」と、参加者が気付かなかったものをアドバイスして終了となりますが、初めはなかなか思いつかない様子です。

また、サバイバル飯づくりにも挑戦しています。空き缶2個と牛乳パックを使って、親子でサバイバル飯を炊き上げるものです。一つの空き缶に米と水を入れ、もう一つの空き

缶はクッターナイフで穴を開けてかまどとして使い、牛乳パックを切って燃料として燃やします。子どもは、普段使わない缶切りやクッターナイフ等を使用し、火をつけて自分でご飯を炊き上げるのですから、間違いなく防災力が身につきます。大人は火傷などの危険もあるので、そばで見守りながら一緒に行います。

自分で炊き上げた空き缶の中のご飯は、おこげもできていて、大変喜んで食べてくれます。手伝った高齢者の方は懐かしさ、若い親御さん達は、子どもとの初めての経験、などさまざまな感想が聞かれますし、いろいろな触れ合いがあります。

サバイバルクッキングとして、フライパンや圧力鍋を使った調理や、手の消毒、食材の扱い方など、ライフラインがストップしても自宅でなるべく調理できる様な講習会を実施したり、ペットボトルを使った簡単なランタン作りなども行っています。

昨年の震災時には、過去に講習を受けた方から、あの時の体験が役に立ちましたと言ってもらい、これまでの自分たちの活動の意義と必要性を再認識しました。

消防団員として、火事や災害があればもちろん現場に出て活動しますが、普段の活動として、もっと地域の皆さんと一緒に楽しみながら防災に興味を持っていただける内容の事業を企画し、実りあるものにしていけたらと思っています。



防災ビンゴ

平成24年度消防団幹部等海外消防事情調査 (アメリカコース)

平成24年10月9日（火）から10月17日（水）

(財)日本消防協会

日本消防協会では、毎年度「海外消防事情調査」を実施しております。

本年度は、全国の消防団長等幹部の方々総勢23名の参加をいただき、10月9日（火）から10月17日（水）までの9日間、アメリカ合衆国西海岸の4都市で現地調査を行いました。

シアトル市（人口約56万）ではワシントン州及びシアトル市消防関係者による東日本大震災消防殉職者追悼式を執り行っていただきました。



追悼式の風景



秋本会長が追悼式にてあいさつ

シアトル市消防局には、職員998名が在職し、そのうち74名が緊急医療対応職員（パラメディック）であり、本当に緊急を要する事案に対し、7台のMedic-oneにそれぞれ2名で乗車し出場します。その他の職員も、全てEMT（救急隊員）の資格を有しています。また、市民にCPR等のBLS（一次救命処置）を普及するため、世界初のバイスタンダー育成専門組織としてMEDIC-TWOを設けています。現場到着の速さと蘇生率の高さは全米でも誇っています。



シアトル市消防局長



シアトル市消防局本部庁舎



ノーマン・ネデル氏の説明



出場件数ナンバーワンの車両M1

ヒューストン市（人口約210万）では、消防大学TEEXの視察をしました。ここでは40を超える訓練施設（ビル、飛行機、車両等）が広大な敷地内（約8万㎡）に点在し、消火、救助、救急等の訓練が行われます。年間受講者は10万人を超え、約半数が海外からの受講者とのことです。



航空機火災想定



メモリアル広場



工場災害想定消火訓練



TEEX施設内見学



車両横転事故想定



EMS（救急隊員訓練室）



瓦礫からの救出想定



小型ショッピングセンター想定

フェニックス市（人口約146万）では、フェニックス市消防局コマンドトレーニングセンターを視察しました。ここでは、映像を観て指揮命令や現場活動の「判断、決断、命令」をするシュミレーション訓練を行います。特に巨大アパート、ショッピングモール、高層ビルなど危険度の高い火災を想定したトレーニングを行います。フェニックス市近隣の28市町村（フェニックス都市圏）の常備消防も含め、年間6,000人の訓練が行われます。

また、フェニックス市には、住民災害対応チーム（コミュニティ・エマージェンシー・レスポンス・チーム）の災害ボランティアが約1,000人おり、連邦政府の資金援助を受け、訓練が行われています。



トレーニングの指揮室



現場用トレーニング設備



視察終了後の記念撮影

グランドキャニオンでは、トゥシヤン消防本部（町の人口約560）を視察しました。ここは、周りの観光地、空港、森林の3ヶ所の消防本部と協力してグランドキャニオンの消防活動を行っています。トゥシヤン消防本部には、職業消防士が4人、義勇消防士が12人おり、義勇消防士は、職業消防士と同じ装備で同じ活動をしています。救助活動も行います。義勇消防士には、報酬プログラムが定められており、出動手当は、義勇消防士の技術レベルに応じて細かく算出されます。義勇消防士の訓練は、毎月第1、第3木曜日の夕方に、計画的に行われています。



水槽付ポンプ救助車



後方上部に合計120mのホース



ASL資器材（薬剤投与）等



安全ベスト

ロサンゼルス市では、消防博物館を見学しました。殉職者の名前が刻まれた石造には、病気等で亡くなられた消防士の名も刻みこまれ、敬意を表していました。9.11で殉職された消防士への追悼の品、歴代の消防署長の写真や功績者の名を残す品々が展示され、LA消防の歴史を感じることができました。



多民族性を表す銅像



寄付者の名前が彫られたレンガ



日本から寄贈された手引きポンプ



映画撮影に使われた消防車両



9.11テロでの殉職消防士の遺品



歴代ハリウッド消防署長の写真

平成24年度日中韓消防協会会議について

(財)日本消防協会

日本消防協会は平成21年から中国消防協会及び韓国消防安全協会とともに日中韓消防協会会議を開催し、友好交流を図っています。

今年度の日中韓消防協会会議は、昨年11月13日に、中国消防協会から隋副会長以下4名、韓国消防安全協会から申会長以下8名の代表団を迎え、日本消防協会からは秋本会長以下8名が出席し、東京で開催しました。

会議では、秋本会長を議長として、各国の消防の動向等について情報交換を行いました。議題は次のとおりです。

- 1 大規模災害発生時における消防の対応について
- 2 今後の日中韓消防協会会議の開催時期について
- 3 国のインフラ（エネルギー施設（原子力、石油、ガス）、交通（航空、鉄道、港）等）を管理する事業者の自衛消防隊、防火管理者、その他の施設関係者に対する安全教育・訓練の現状について

来年度の日中韓消防協会会議は、12月に韓国で開催することで合意しました。



平成24年度防火防災に関する 作文コンクール審査結果

生活協同組合 全日本消防人共済会

生活協同組合全日本消防人共済会では、毎年全国の中中学生を対象とした防火防災に関する作文コンクール行っています。

各都道府県の支部から、「わたしのまちの消防団」を作文のテーマとし、選抜された作品46点の中から、当共済会において、厳正なる審査を行い、最優秀賞には宮城県石巻市立湊中学校3年横山巧さんの作品が選ばれました。

佳作以上の作品については、入賞作品集としてとりまとめて、全国の消防機関等へ配布いたしました。

たくさんのご応募ありがとうございました

最優秀賞（1名）

宮城県	石巻市立湊中学校	3年	横山	巧さん
-----	----------	----	----	-----

優秀賞（3名）

宮城県	大河原町立金ヶ瀬中学校	3年	鈴木	健さん
愛媛県	宇和島市立城北中学校	2年	上甲	菖さん
鹿児島県	薩摩川内市立川内南中学校	1年	北原	碧海さん

佳作（9名）

青森県	十和田市立十和田湖中学校	1年	守田	彩乃さん
岩手県	洋野町立中野中学校	1年	櫻井	翔太さん
茨城県	北茨城市立関本中学校	3年	酒井	達弥さん
鳥取県	伯耆町立溝口中学校	3年	神庭	秋穂さん
愛媛県	上島町立弓削中学校	2年	浪切	奈々さん
香川県	高松市立国分寺中学校	1年	福井	里紗さん
熊本県	天草市立天草中学校	2年	古田	駿作さん
熊本県	玉名市立天水中学校	2年	大久保	賢一さん
福岡県	宗像市立自由ヶ丘中学校	2年	奥井	みわ子さん

宮城県

石巻市立湊中学校 三年

横山 巧

ギリギリの状況の中で

「皆さん無事ですかー？」

という声とともに、誰かが階段を上ってくる音が聞こえました。

それは、あの日、忘れもしない「東日本大震災」から三日目の朝でした。僕は僕のおじいさんとおばあさん、そして近所に住んでいるおばの四人で自宅の二階に居ました。間一髪で津波から逃れられたものの、しばらく自宅の周りの水が引かず、身動きがとれなくなっていました。

「このままどうなってしまうのだろう」

余震に怯えながら、二階の窓から見える映画のワンシーンのような荒れ果てた風景に僕はただただ息をのむことしかできませんでした。

そんな時、消防団の方が救助に来てくれたのです。しかし、その方の衣服は、とても汚れていました。自らも津波にのみ込まれたのだそうです。そのような大変な状況の中でも消防団員として懸命に地域住民の救助にあたっていたのです。私はようやく助かったんだなという思いと同時に、自らも危険な目に遭いながら、それでもなお地域住民を守ろうとする消防団の方の勇敢な姿に感動したことを、今でもはっきり覚えてます。

震災後、たくさんの消防団の方が犠

牲になったことをニュースで知りました。皆さん、自分の命や家族を顧みず、必死で僕達を守ってくださったのだと思います。とても感謝しています。

また消防団の方は、別に自分の仕事を持ちながら、防火、防災活動をしてくださっていることも、震災後に分かったことです。地域を守りたいという気持ちがなければできないことだと思います。あの時の、消防団の方の勇敢な姿は、まさに地域を守りたいという気持ちの表れだと感じました。

被災して、我を失い、自分のことしか考えない大人を数多く見ました。一枚の毛布を奪い合う大人。皆で分け合って飲まなければならないわずかな水なのに自分だけで飲み干す大人。その度に、残念な気持ちになったものです。

そのような中で、地域のために活動してくださる消防団の姿は、自分のことよりも周りを思いやって行動できる大人になりたいと強く感じさせられるものでした。

将来、また大きな災害があるかもしれません。その時は消防団の方々のように自分のことだけでなく、周囲の人、地域の人達を助けられるようにしたいです。僕達の意識を変えればきっと万が一の事が起こっても、僕達はもちろんですが消防団の方々も危険な目に遭いにくくなると思います。それができてこそ、みんなが安全に暮らせるはずです。

消防団の方々への感謝を忘れず、まずは僕達の意識を変えていきたいと思っています。

第16回消防互助年金海外視察 (自然災害時緊急援助隊組織訪問を中心として)

日本消防協会では、消防互助年金の加入者等とその家族を対象とした海外視察を実施しており、今回は平成24年11月18日（日）から24日（土）までの7日間、15名の参加者でオーストラリアを訪問しました。

オーストラリアは、東西約4,000km、南北約3,700km、面積は約769万km²と日本の約20倍の世界第6位で、8つの州・準州・特別地域からなっている連邦国家です。日本とは季節が逆になるため、視察時は初夏の気候でした。オーストラリアには、ウルル（エアーズロック）やゴールド・コースト、グレート・バリア・リーフなど有名な観光地が数多くありますが、今回は東海岸のシドニー及びゲアンズに滞在し、オペラハウスやグレート・ブルーマウンテンズ、キュランダの熱帯雨林の森、グリーン島クルーズなど多くの世界遺産等の観光地を巡ることができました。

視察4日目には、オーストラリアの首都キャンベラの首都特別地域を取り囲むように位置しているニュー・サウス・ウェールズ州（略称：NSW、州都：シドニー）のウーロンゴンにある自然災害時緊急援助隊組織（State Emergency Service 以下「SES」）の本部を訪問しました。

NSWのSESは、州全土に228のユニットがあり、約10,000人の団員はほとんどがボランティア要員で構成され、団員はオレンジの制服を着用しています。

主な任務は、洪水や台風災害への対応ですが、郊外の農村エリアにおいては交通事故の救命活動、断崖からの救助等、専門技術を要する任務も



SES本部のマリーコミッショナーと

担っています。なお、日本の消防団のように火災の消火活動は別組織があるため行わないそうです。

最近1年間では、これまでの歴史にないくらいの出動要請（12～4月で約95,000件）があり、その70%が洪水による出動であったとのこと。また、東日本大震災の際には動物レスキューのユニットが出動しました。

SESへは16歳以上であれば性別等に関係なく加入することができます。また、SESの訓練組織で訓練を受けた方々は地域の人々からの信頼が厚く、SES本部の近くにある大学の学生もSESのメンバーとして多数登録されているとのことでした。

日本とは違った、その土地に適した防災体制がとられていることを知ることができ、またオーストラリアの大自然等を満喫し、今回の海外視察を終えました。



キュランダにてアボリジニと



SES本部のオペレーションセンターのみなさんと

頑張れ! 少年消防 クラブ

No.58 八女市矢部少年消防クラブ（福岡県） —夏季研修を実施—

事務局 入部 恵市

八女市矢部少年消防クラブでは、本年度より矢部中学校1年生を加え、クラブ員総勢39名で、7月30日に平成23年度夏季研修を実施しました。

前年度までは、規律訓練、心肺蘇生法等の消防訓練や、矢部村の文化の知識の習得のため、お茶ソムリエの指導のもと八女茶の入れ方体験、御前焼の陶芸体験を実施してきましたが、本年度は水害に対する学習を行って防災マップを作成しました。

昭和28年に発生した矢部村過去最大の水害の体験をされた轟義夫さんにその当時の

様子について講話いただきました。クラブ員は、自分達が住む地域で発生した水害の話に興味深く聞き入っていました。その後、4班に分かれ班ごとに村内の危険箇所、避難場所、避難経路等の探索を行い、工夫を凝らし水害の防災マップを作成し、立派に発表することができました。

クラブ員は、少年消防クラブの活動を通して、矢部村の文化、歴史を知り、自分達矢部村の災害について考え、知識を得ることで、未来の消防団、自衛消防隊のリーダーとして、一歩ずつ進んでくれることでしょう。



文化財を火災から守ろう！

総務省 消防庁 予防課

文化財は国民共通の貴重な財産であり、火災による焼失等から保護し、後世に残すことは、私たち国民の極めて重要な責務です。

○ 1月26日は「文化財防火デー」

昭和24年のこの日は、世界的至宝で1300年の歴史を持つ日本最古の壁画が描かれた奈良県法隆寺金堂が焼損した日にあたります。その後も文化財の消失等が相次いだことから、消防庁と文化庁では、文化財を火災や震災、その他の災害から保護するとともに、国民一般の文化財愛護思想の普及高揚を図ることを目的として、昭和30年にこの日を「文化財防火デー」と定め、全国的に文化財防火運動を展開してきました。

近年の重要文化財建造物やこれに準ずる歴史的に価値の高い建造物において、火災の被害を受けた例としては、平成19年5月及び平成20年1月には神奈川県藤沢市の旧モーガン邸本棟等が、平成20年5月には大阪府吹田市の吉志部神社本殿（重要文化財）が焼失しており、平成21年3月には奈良県天理市の石上神宮禊社出雲建雄神社拝殿（国宝）、神奈川県横浜市旧住友家俣野別邸（重要文化財）、神奈川県大磯町の旧吉田邸が焼失したことなどが挙げられます。

また、海外では平成20年2月に韓国ソウル市の国宝南大門で火災が発生しましたが、こうした文化財火災から文化財を守っていくことの大切さを改めて認識させられます。

文化財の防火は文化財の所有者・管理者だけで成し遂げられるものではなく、地域の住民や消防機関などが一体となって継続的に取り組むことが必要です。

貴重な文化財を守るため、次のことに配慮して、文化財防火に取り組んでください。

1. 防火訓練の実施

防火訓練を実施する際には、次の点に留意してください。

- (1) 消防機関への通報、初期消火、重要物件の搬出、避難誘導などの総合的な訓練の実施。
- (2) 見学者の多い木造建造物等については、火の回りが早いことを考慮した避難誘導訓練の実施。
- (3) 使用した防火水そうの点検整備、消火器の消

火薬剤の詰め替え及び反省会の実施。

2. 防火対策の推進

次の点に留意して、防火対策の推進に努めてください。

- (1) 文化財の規模、立地条件、人員構成等の実態に即した消防計画の作成と、計画に基づく自衛消防組織等の防災体制の整備強化及び夜間等警備が手薄になる場合についての対策。
- (2) 喫煙、裸火の使用等の禁止区域内の巡視等を行うことによる火災危険要因の排除。
- (3) 文化財周辺地域の住民と防災のための連携を密にすることによる、情報連絡体制及び通報体制の確立。
- (4) 消防用設備等の点検、整備の励行。
- (5) 消防機関による防火診断等の実施。
- (6) 電気・ガス設備、火気使用箇所、可燃物・危険物の保管場所等の点検・整備。
- (7) 文化財周辺の環境の整理・整頓。
- (8) 震災時に消火栓等が使用できない場合を想定した代替措置。
- (9) 震災等に対処するための木造建築物等の点検及び応急資材の準備。
- (10) 避難路及び避難場所の点検及び整備。



第58回文化財防火デーにおける訓練実施の様子
実施日：平成24年1月26日（木）
会場：国宝二条城（京都府京都市）
※写真提供：京都市消防局

問合わせ先

消防庁予防課予防係 椎名、児玉、根本
TEL：03-5253-7523

1月17日は「防災とボランティアの日」 1月15日～21日は「防災とボランティア週間」

総務省 消防庁 防災課

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、全国から数多くのボランティアが駆けつけ、様々なボランティア活動を実施したことで、被災地の復興に向けた大きな力となり、災害ボランティア活動の重要性が広く認識されるようになりました。

この阪神・淡路大震災を契機として、平成7年12月、国民の皆さんが災害時におけるボランティア活動や住民の自主的な防災活動についての認識を深めるとともに、災害への備えの強化を図ることを目的に、「防災とボランティアの日（1月17日）」及び「防災とボランティア週間（1月15日～21日）」が創設されました。毎年この時期には、全国各地で地方公共団体や関係団体の密接な協力の下、講演会や展示会等の災害ボランティア活動に関する様々な普及・啓発活動が行われています。

阪神・淡路大震災以降も、全国各地で地震や風水害などの自然災害が数多く発生し、多大な被害をもたらしており、これらの災害による被災地では災害ボランティア活動が献身的に行われています。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災において

も、泥かきや支援物資の仕分け、子どもの遊び相手や学習支援、高齢者への傾聴、外国語や手話の通訳、栄養指導、カウンセリング等、ボランティアによる幅広い支援活動が行われています。また、平成23年台風第12号や、本年7月の九州北部豪雨の際にも、ボランティアによる泥かきや家財道具の片付け、清掃等の活動が行われました。

災害ボランティアによる復旧・復興支援や生活再建支援等の活動は、被災地の復興を早めるなど大きな役割を果たしています。しかしながら、被災地での受け入れ体制を整えることが困難となり、ボランティアが有効な活動を行えないこともあります。そこで、各地の災害ボランティアセンターでは、ボランティア希望者を円滑に受け入れるための事前登録制度を設けたり、被災者からのニーズを的確に把握し、そのニーズに合わせてボランティアを各戸に派遣するマッチングシステムの整備、ボランティア活動が安全に実施されるための環境の整備など、災害ボランティア活動が安全かつ真に被災地にとって有効な形で行われるための取組が行われています。

また、ボランティア関係者、行政、社会福祉協議会、自治会の代表者などが意見交換するなど、災害ボランティアを受け入れるための平時からの取組を進めている地域も見受けられます。

消防庁でも、災害ボランティアが活動しやすい環境の整備について、各都道府県及び政令指定都市の災害ボランティア担当者が意見交換を行う場として「災害ボランティアの活動環境整備に関する連絡協議会」を毎年開催しています。

ボランティア活動に関心のある方は、身近で活動するボランティア団体を訪ねたり、地域の自主防災組織の訓練に参加してみる、ボランティアへの活動募金を行うなど、できることから積極的に参加してください。また防災とボランティア週間に開催される各地の催しにもぜひ足を運んでみてください。



平成24年10月21日 南三陸町波伝谷地区でのがれき撤去活動
(写真提供：宮城県南三陸町ボランティアセンター)



平成24年7月九州北部豪雨
耶馬溪町下郷地区での家屋の泥かき作業
(写真提供：大分県中津市役所)

関連リンク

防災とボランティア週間（内閣府）
<http://www.bousai.go.jp/volunteer/index.html>
助けあいジャパン（復興庁と民間との連携プロジェクト）
<http://tasukeaijapan.jp/>

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課地域防災係
浦田、岩片
TEL：03-5253-7525

「消火栓」や「防火水槽」の付近は 駐車禁止です

総務省 消防庁 消防・救急課

皆さんは、火災が発生した場合に、消防車が消火に使用する水を、どこから吸い上げているのかご存じですか。

池や川の水を吸い上げている場合もありますが、多くの場合は道路上や歩道脇等に設けられた消火栓や防火水槽から吸い上げています。

このため、消火栓や防火水槽の上、またはその付近に車両を駐車してしまうと消火に使用する水を吸い上げることができなくなり、消火活動に支障をきたしてしまいます。

また、消火栓や防火水槽の上、またはその付近に車両を駐車することは、法律でも禁止されていますので、絶対に駐車しないでください。



消火栓の上に車が止まっているため、消防車が消火栓を使用することができません。



消火栓は、消防車が吸水しやすいように、道路脇や歩道上に設置されています。消火栓など、消防水利周辺への駐車はやめましょう。



地下に埋設された消火栓の例



地下に埋設された消火栓の内部



地下に埋設された防火水槽の例



(写真提供：下関市消防局)

こんな場所への駐車は禁止されています！

■駐車が禁止されている主な場所

- ・消防用機械器具の置場若しくは消防用防火水槽の側端又はこれらの道路に接する出入口から5メートル以内の部分
- ・消火栓、指定消防水利の標識が設けられている位置又は消防用防火水槽の吸水口若しくは吸管投入孔から5メートル以内の部分

問い合わせ先

消防庁消防・救急課 橋本

TEL：03-5253-7522

消防団への入団促進

総務省 消防庁 国民保護・防災部防災課

消防団は、消防本部や消防署と同様に市町村の消防機関の一つであり、消防団員は、本業を持ちながらも「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づいて、地域の安心・安全の確保のために活動する非常勤特別職の地方公務員です。

さて、平成23年3月に発生した東日本大震災をはじめ、平成24年7月には九州北部豪雨など多くの災害が発生し、そのような中で消防団員は昼夜を分かたず献身的に災害対応に当たるなど重要な役割を果たしました。このような災害への対応を考えると地域に密着した消防団は、今後も地域防災の核として非常に重要であります。

しかしながら、過疎化、少子高齢化の進行、産業・就業構造の変化等に伴い、消防団員数は年々減少し続けており、平成24年4月1日現在、約87万4千人で10年前の平成13年4月1日の約94万4千人に比べ、約7万人（約7.4%）減少し、地域における防災力の低下が懸念されています。

そのため、全国の消防防災機関では、消防団員の確保に向けた様々な取組を展開しているところです。例年3月末から4月にかけて消防団員の退団が特に多くなる時期を迎えることから、今年度も1月から3月までの間、全国的な「消防団員入団促進キャンペーン」を実施します。

本キャンペーン期間中は、消防団員の確保に向けて、特に、事業所の協力促進並びに女性及び大学生等の入団促進に重点的に取り組むこととしています。

○消防団活動への事業所の協力の促進

現在の消防団員の約7割が、会社員などの被雇用者であり、消防団活動には、事業所の協力が不可欠となっています。平成18年度から消防団協力事業所表示制度がスタートしており、勤務中の出勤への便宜や従業員の入団促進を図るなど事業所ぐるみで積極的な活動を行っている事業所も多く、既に平成24年4月1日現在で「消防団協力事業所」として約8千6百の事業所が認定されています。

○女性の入団促進

女性を消防団員として採用しようとする動きが全国的に広まっており、平成24年4月1日現在、全国で約2万人の女性消防団員が、火災予防広報、

一般家庭や高齢者宅への防火訪問、応急手当の普及啓発活動等、多岐にわたって活動しています。

○大学生等の入団促進

消防団員の高齢化が進む中、若年層の消防団員確保が課題となっています。大学生等の若い力を消防団活動で発揮していただくことは大変有意義で、地域の防災力向上にも効果的です。平成24年4月1日現在で約2千3百人の大学生等（専門学校生を含む。）が消防団で活躍しています。

消防団は、地域防災の中核的な存在であり、地域の安心・安全を確保するために大変重要な組織です。ぜひ、多くの皆様に消防団活動に対する理解を深めていただき、消防団活動に参加いただけることを期待しています。

○消防団員入団促進の主な取組事例



「街頭でのキャンペーン活動」
写真提供：山口県下関市消防本部



「大学でのキャンペーンの様子」
写真提供：静岡県

問い合わせ先
消防庁防災課 吉田
TEL：03-5253-7525

地震発生時の出火防止

総務省 消防庁 防災課

地震が発生したときに起こる火災が地震そのものによる被害を何倍にも大きくすることは過去の事例からも明らかです。平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災での出火原因としては、電気ストーブや配線などの電気関係、ガスストーブやガスコンロなどのガス機器関係、また石油ストーブなどが主なものとして挙げられています。



初期消火

突然、大きな揺れに襲われたときは、まず自分の身の安全を守ることが大切です。あわてて行動すると、転倒した家具、飛び散ったガラスや陶器の破片で怪我をする恐れがあります。丈夫な机の下に身をかくしたり、家具から離れるなどして自分の身の安全を守り、揺れが収まったらすぐに火の始末をしましょう。揺れている時に無理をして火を消しに行くと、調理器具が落ちてきてやけどをする危険があります。

万が一、周りのものに火が付いてしまっても、初期のうちは消火器などで十分に消すことができます。速やかに消火するとともに、大声で隣近所に助けを求めることも大切です。

電気火災を防ぐ

地震では停電することがありますが、復旧したときに転倒した電気器具が作動して出火する通電

火災に注意する必要があります。避難などで家を空けるときは、電気のブレーカーを切り、電気器具はコンセントから抜いておきましょう。

また、ブレーカーを戻す際は、転倒したままの電気器具がないか、ガス漏れがないかなど安全を確認しましょう。

ガス漏れを防ぐ

最近、地震による大きな揺れを感知して自動的にガスの供給を遮断するマイコンメーターの設置が進んでいますが、念のため元栓を閉めてガス漏れを防ぎましょう。また、プロパンガスを使っているところでは、ボンベをチェーンで固定するなど転倒防止を行い、普段からの対策に努めましょう。



石油ストーブの対処

最近の石油ストーブは対震自動消火装置が付いているので危険性は少なくなりましたが、過信は禁物です。必ず火が消えたことを確認しましょう。また、石油ストーブの周りに燃えやすい物を置くことは火災につながります。普段から使用上の注意を守りましょう。

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課震災対策係 日野、長崎
TEL：03-5253-7525

うちの

名物団員



熊
本
県



人吉市消防団 第2分団 第3部 団員

TULOD LORENZ CAEZAR (トゥーロード・ローレンス・カイザル)

平成23年に人吉市消防団に入団したローレンス団員はフィリピンのマニラ出身の24歳です。

17歳のときに単身で来日し、平成20年には人吉市内の女性と結ばれ、奥様の実家で家族とともにタバコ栽培などの農業に精を出しています。家庭では4歳の青空(そら)ちゃんと1歳の大地(りく)くんの2児のパパとして、子育て

にも頑張っています。

現在は、1月13日の出初式に向けて、消防礼式や小型ポンプでの「玉落とし」の訓練の真っ最中です。

消防団員としてはまだまだこれからの彼ですが、明るく人懐っこい性格のローレンス団員は、先輩たちからの厳しい(?)指導を受けながら、元気に消防団活動を行っています。

大
分
県



別府市消防団 第4分団 団員

山下 優一

郵便局長の肩書を持つ山下優一団員は、今年4月に入団したばかりの新入団員です。所属する第4分団は温泉都市別府において、浜脇地区などを担当しています。

普段は明るく丁寧な口調で誰からでも親しまれる山下団員ですが、消防団活動においては持ち前のバイタリティで懸命に取り組み、入団一年目から操法大会の出場を果たしました。

その結果、放水やホース延長の技術は、経験豊富な先輩団員から一目置かれる存在となっています。

島
根
県



飯南町消防団 第6分団 分団長

伊達 弘文

伊達分団長は昭和59年に入団し、消防団歴は28年です。

今年、伊達分団長率いる第6分団は島根県消防操法大会に出場し、飯南町消防団史上最高成績を収めました。その裏には、お手製の照明器具を設置して選手が思う存分練習できる環境を整えるなど、伊達分団長の努力がありました。

このように面倒見のよい性格で、地域においても集落営農組織の代表を務めるなど、地域の安全と発展のために日々努力しておられ、今後も益々の活躍が期待されています。



上中消防団 第1分団 分団長

鳥羽 司

大きくて頼れる第1分団長を紹介します。

体重130キロで柔道3段の鳥羽 司さんです。

老舗旅館を営んでいます。

平成19年の福井県操法大会には、班長としてチームをまとめ見事優勝を果たしています。

好きな言葉は、「地域」。

歌は、ゆずとコブクロを愛し情熱的で社会派の防災リーダーとして、今も地域に根ざし活躍しています。



蓬田村消防団第6分団 団員

小野 寛敬

「ヒロさん」の愛称で多くの住民・団員に親しまれている、蓬田村消防団第6分団団員の小野寛敬さんをご紹介します。

普段より村役場で住民の為、日々多忙な業務をこなしているヒロさん。

村の行事には率先し手伝い、節分には鬼・クリスマス会にはサンタに扮したりし、大いに盛り上げております。

消防活動においても持ち前の積極性で第6分団では一番に出動し、先陣を切って他の団員に指示を行っております。

今後も「村行政発展の為に尽力する。」と本人も意気込んでおります。



遠田郡美里町消防団 団員

千葉 恵子

平成15年の全国女性消防操法大会に出場した経験を持つ千葉団員は、宮城県美里町のスーパースポーツウーマンです。

学生時代は陸上短距離走の選手で、主に200mと400mを得意とし、宮城県代表として国体にも出場しています。

現在は、仕事と家事を両立しながら、さらにバレーボールと陸上長距離走をメインに日々スポーツにいそしんでいます。

特に長距離走に力を入れていて、驚くことに今年、京都マラソン、湘南国際マラソンのフルマラソン2回、仙台ハーフマラソン、松島マラソン、さくらんぼマラソンのハーフマラソン3回を走破しているとのこと。

そんな活動的な千葉さんいわく、走ることは、「健康増進」、「体力維持」、「ストレス解消」に最高とのこと。

消防団の広場

神奈川県

「安全で住みやすいまちを目指して」

茅ヶ崎市消防団
団長

廣瀬 康男



茅ヶ崎市は、神奈川県の中南部に位置し、東京から西に50キロメートルあまり、南は海岸線約6キロメートルに及ぶ相模湾に接しております。湘南ソングの中にたびたび登場し、すっかり有名になった茅ヶ崎のシンボルのひとつである「えぼし岩」は、茅ヶ崎海岸の沖合約1.2キロメートル、大小30数個の小島が集まった姥島の中央に突き出た高さ約14メートルの岩で、平安時代の貴族がかぶっていた烏帽子に似ているところからこの名で親しまれています。



えぼし岩

茅ヶ崎市消防団は、1団本部、22分団で組織され、平成24年4月1日現在、412人の消防団員で構成されております。装備は消防ポンプ自動車5台、小型動力ポンプ付積載車26台などを保有し、地域防災の要として幅広い活動を行っています。

平成22年4月には消防団と地域コミュニティとの結びつきを強化し、更に地域防災力を総合的に高めるため、女性消防分団（第22分団）を結成し、女性の視点を生かしたきめ細やかな防火広報や救命講習会での指導及び消防団のPR活動などを積極的に行っております。

消防団の活動としては、市内で発生した火災や風水害での警防活動を主な活動とし、平常時は地

域住民の防火思想の高揚を図ることを目的に、防災訓練での指導を始め、火災予防広報、年末年始の特別警戒等を実施しています。

また、消防出初式や消防フェスティバルでも各地区から模擬店を出店したり、子供たちに放水体験コーナーを設け、消防団のPRを含めた防火広報活動を実施しています。



消防フェスティバル放水体験

消防団を取り巻く現状として、消防団員の高齢化とともに消防団員確保が厳しい現状があり、また被雇用者団員の増加など諸問題が叫ばれていますが、茅ヶ崎市も例外ではありません。団員は三十代から四十代が中心で、事業所などで働くサラリーマンが増えています。消防団員は「自分の地域は自分で守る」という精神に基づき活動しており、近い将来発生が危惧される東海地震などに備え、地域の自主防災組織などの関係機関と協力しながら、安全で住みやすいまちを目指し活動しております。



ショーボーグと女性消防分団



消防団120年 記念カレンダー

平成25年(2013年)



平成25年は明治27年に消防団がスタートしてから120年！
この間の消防ポンプ、自動車の発展を写真で見ることが
できる記念カレンダー！（過去の災害記録を記載）
平成25年**限定**のカレンダー！販売価格は**1,000円**（税込）で
在庫がなくなり次第販売終了となりますので、お早めに！！

▼販売価格

1,000円（税込）

▼お申し込み方法

消防団員・職員の方は所属で取り
まとめて、都道府県消防協会に
お申し込み下さい。

日本消防会館でも販売中！

(<http://www.nissho-jyohou.jp/nissho-hall/index.html>)

上記以外の方は、お電話、又は株式会社シグナルOS
のホームページからお申し込み下さい。

<http://www.signalos.co.jp>

(http://www.signalos.co.jp/Firecorps_120_calendar.html)



▼掲載内容

■ 1月【主写真】鹿用ポンプ 愛媛北伊予村 【補助写真】上湧消防組 ■ 2月【主写真】蒸気ポンプ 青森県弘前市 【補助写真】青森県五所川原消防団所蔵 ■ 3月【主写真】ガソリンエンジンポンプ一
関（現存放水可）【補助写真】福岡 長津町消防組 ■ 4月【主写真】アーレンフォックス 四谷消防博物館 【補助写真】徳島県 徳島市消防組 ■ 5月【主写真】スタッツ 四谷消防博物館 【補助写真】北
海道 音更消防組 ■ 6月【主写真】シボレーポンプ車 京都市消防局 【補助写真】埼玉所沢消防組 ■ 7月【主写真】ダッジポンプ車 茨城県下館市消防団 【補助写真】青森県 脇野沢村消防組 ■ 8月
【主写真】くろがね号 小田原市消防本部所蔵 【補助写真】北海道 梶泉村消防組（三輪消防車） ■ 9月【主写真】ポンプ車現役 大穂町消防団 【補助写真】全国消防操法大会 ■ 10月【主写真】気仙沼市
消防団 ミニ消防車 【補助写真】女性操法大会 ■ 11月【主写真】所沢市消防団車両（CD-1型） 【補助写真】消防操法大会（男性） ■ 12月【主写真】多機能型消防車両 【補助写真】機載機材
※「消防防災関連週間」を色分（黄色）けて表記してあります。

※販売終了時は財団法人日本消防協会のホームページでお知らせします。



お申し込みは裏面のFAX、お電話、
ホームページをご利用下さい。
消防団120年記念カレンダー 検索

TEL. ☎ 0120-607-444

FAX ☎ 0120-34-4976

受付時間 / 9:30 - 17:30 ※携帯・PHSからもご利用できます。

■ 休業日 / 土日・祝日

24時間受付

■ 裏面の専用注文書をご利用下さい。



<http://www.signalos.co.jp>

E-mail: info@signalos.co.jp

株式会社シグナルOS

〒783-0833 広島市西区商工センター4丁目4-7

平成24年度 全国統一防火標語

「消すまでは 出ない行かない 離れない」

1月の日本消防協会関係行事

1月15日（火）～1月18日（金） 第39回消防団幹部特別研修

1月25日（金） 全国消防殉職者遺族会（理事会）

編集後記

師走になり気温低下で寒い日が続いています。12月6日には日本海で急速に発達した低気圧の影響で、日本海側を中心に台風並みの暴風が吹き大荒れとなり、その後は大雪になったところも各地でありました。皆様冬の備えを万全にして乗り切ってください。

また、年末からノロウイルスが流行し感染者が増加しているそうです。主におう吐や下痢、腹痛などの症状があり、健康な人は軽症で回復するそうですが、子どもやお年寄りなどでは、重症化することもあります。また、感染力が非常に強いため保育園や学校など集団生活をしているところでは、特に注意が必要となってきます。

実は私も、2～3年ほど前にノロウイルスに罹ったことがあります。昼過ぎから気分が悪くなって早退し、自宅で休んでいましたが、吐気を催すとわずかに居間からトイレまでの距離が5mくらいしかないのに、そこまで持たないといったこともあり、大変苦しかったことを覚えています。

感染予防としては、まず手洗いの励行はよく言われますが、それに加え「食品を扱う人は下痢や嘔吐などの症状があるときは、食品の取り扱いを控える。」「二枚貝などは、十分に加熱する。」「万一感染した人が身近にいる場合、嘔吐物や排せつ物は適切に処理し、作業時はビニール手袋やマスクを使用して、処理したものは密封して捨てる。」といった処置を行い感染予防に努めましょう。

皆様、「日本消防」を1年間購読して頂きまして有難うございました。来年もより良い誌面にしていきたいと思っています。掲載希望の記事などがありましたら、ご投稿頂けたら幸いです。お待ちしております。

それでは、良いお年をお迎えください。

(K・S)

購読募集

購読を希望される方は、(財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,388円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十五巻第十二号
平成二十四年十二月五日印刷
平成二十四年十二月十日発行

編集人 川手 晃
発行所 財 日本消防協会
東京港区虎ノ門二一九一十六
電話 〇三(350)一四八一(代)

印刷所
東京都文京区湯島三二二一十二
日本印刷株式会社
電話(333)六九七一(代)

消防人の火災共済の補償が増額されました 「1000倍補償を1500倍補償にUP」

B型火災共済 (加入口数は5口から25口まで)

10口の場合 掛金1000円で
火災共済金 100万円を150万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で)20万円を30万円に増額しました。
『掛金は、500円～2,500円(500円単位)で加入できます。』

C型火災共済 『加入口数は、最高200口』

火災共済金 2,000万円を3,000万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で)400万円を600万円に増額しました。
※ 風水雪害等共済金とは、これまで災害見舞金としてお支払いしていたものです
※ 加入にあたり、組合員となっていたいただくために出資金が必要になります。



生活協同組合 全日本消防人共済会

事務局 (財)日本消防協会内 支部 都道府県消防協会内

消防互助年金

— 将来の自分の為の積立年金制度です —

消防互助年金は、消防団員・消防職員の皆さまの老後の安定と福祉の向上を図るために、(財)日本消防協会が、第一生命保険株式会社と締結している拠出型企業年金です。



65歳まで積み立て可能な、公的年金の補完ができる制度です。

消防団の退団後・消防職の退職後も継続できます。

消防互助年金の説明に担当者がお伺いします。都道府県消防協会を通じてお申し込みください。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

加入申込みは消防事務担当へ

問合せ先

- 各市町村の消防事務担当係
- 都道府県消防協会

(日本消防協会ホームページ)

- (財)日本消防協会 年金共済部
 - 生活協同組合全日本消防人共済会
- 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
日本消防会館 TEL.(03)3503-1481~5
<http://www.nissho.or.jp>